第 19 講　戦争への道と敗戦
PART2「憲政の常道」

Chapter 1　大正末期の政局

目標
第一次護憲運動と第二次護憲運動の違いを知ろう。
憲政の常道とは何かを知ろう。

1　第二次護憲運動

①〔1　　　　　　　　　　〕内閣（**枢密院**・貴族院，1924 年）

元老の松方正義と西園寺公望は，政党と距離を置く人物を選ぶため，

２年前に死去した元老山県有朋直系の元官僚・枢密院議長であった清浦を首相に推した。

※普通選挙実施を方針とし，政党・民衆の懐柔を図る。

立憲政友会を割った床次竹二郎の**政友本党**を味方に，

陸相・海相を除く全閣僚を貴族院議員から選出する**超然内閣**を組閣。

②〔2　　　　　　　　　　　　　〕**（1924 年）**

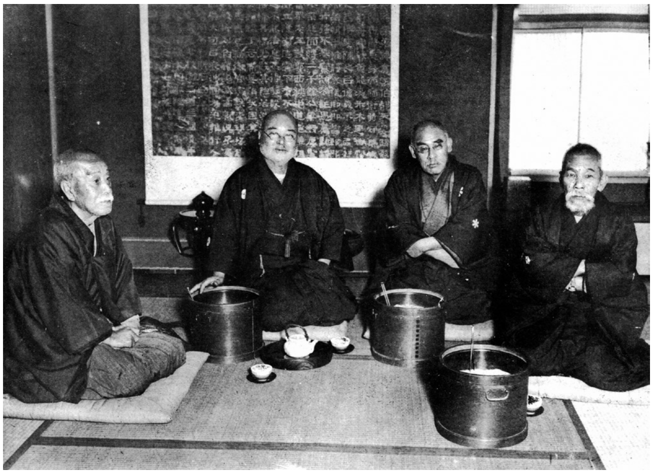
護憲三派の〔3　　　　　　　　〕**（加藤高明）・立憲政友会（高橋是清）・**

革新俱楽部（犬養毅）が倒閣運動を開始。

「普選断行」「行財政整理」「貴族院改革」を掲げ，解散・総選挙に持ち込むが，

第一次護憲運動に比べて民衆運動は盛り上がらず。

※護憲三派が総選挙に大勝，連立して加藤高明内閣が成立。



護憲三派の首脳（右の３名）

2　憲政の常道

衆議院の多数党総裁に組閣の大命が下り，

政党内閣を組織する慣習を〔4　　　　　　　　　〕という。

憲政会（のち**立憲民政党**）と**立憲政友会**の二大政党制が約８年続いた。

①〔5　　　　　　　　　〕**内閣**（**護憲三派のち憲政会**，1924 ～ 26 年）

1925 年に護憲三派の協調が崩れ，憲政会単独内閣へ（政友本党と提携）。

対立する立憲政友会は，革新倶楽部を吸収し拡大。

1925 年　日ソ基本条約

※日本は**北樺太からの撤兵**と引き換えに，当地の油田の半分の開発権を獲得。

〔6　　　　　　　　　〕

※国体（＝天皇制）の変革と私有財産制度（＝資本主義）の否認を目的とする

結社の組織者と参加者（＝共産主義者・無政府主義者）を処罰。

〔7　　　　　　　　　〕

※満 25 歳以上の男子（全人口の 20.8％）に選挙権を与え，中選挙区制を採用。

②**第一次若槻礼次郎内閣**（**憲政会**，1926 ～ 27 年）

加藤の病死により若槻が組閣。**金融恐慌の収拾を試みるが，**

幣原喜重郎外相の協調外交〔幣原外交〕に不満を持つ枢密院の反対により挫折，総辞職。

1926 年　大正天皇崩御により摂政宮裕仁親王が即位して〔8　　　　　〕と改元

公布年	実施年	公布時の内閣	選挙人の対象者			
			直接国税	性別年齢（歳以上）	総数（万人）	全人口比（%）
1889	1890	黒田清隆	15円以上	男性25	45	1.1
1900	1902	山県有朋	10円以上	〃	98	2.2
1919	1920	原　敬	3円以上	〃	306	5.5
1925	1928	加藤高明	制限なし	〃	1,240	20.8
1945	1946	幣原喜重郎	〃	男女20	3,688	50.4
2015	2017	安倍晋三	〃	男女18	10,609	83.7

おもな選挙法の改正

若槻礼次郎

まとめ

第一次護憲運動と違い，第二次護憲運動は国民的な運動にならなかった。

衆議院の多数党の総裁が政党内閣を組閣する慣習を「憲政の常道」という。

Chapter 2　昭和初期の政局

目標
二大政党の違いについて知ろう。
戦前の政党政治が８年で終わったのはなぜだろう？

1　戦前の二大政党

①〔[1]　　　　　　　　〕→自由党系の**急進的民権派が官僚と妥協して発展**

自由党→立憲自由党→自由党→憲政党（合同）→憲政党（分裂）を経て立憲政友会に。

政友本党が党を割るが，革新倶楽部を吸収。

※総裁は伊藤博文→西園寺公望→原敬→高橋是清→田中義一→犬養毅→鈴木喜三郎。

※**三井財閥**などと結び，**積極外交・積極財政〔インフレ財政〕**の傾向が強い。

②〔[2]　　　　　　　　〕→立憲改進党系の**漸進的民権派が官僚と妥協して発展**

立憲改進党→進歩党→憲政党（合同）→憲政本党→立憲国民党→立憲同志会を経て**憲政会**に。政友本党が合流して立憲民政党となる。

※総裁は憲政会時代の加藤高明→若槻礼次郎を経て，浜口雄幸→若槻礼次郎→町田忠治。

※**三菱財閥**などと結び，**協調外交・緊縮財政〔デフレ財政〕**の傾向が強い。

田中義一

浜口雄幸

2　戦前の政党政治の終焉

①〔[3]　　　　　　　　〕**内閣**（**立憲政友会**，1927 ～ 29 年）

第５代立憲政友会総裁となった，陸軍・長州閥の田中が組閣。

外相も兼任し，強硬外交〔二面外交〕を展開するが，

張作霖爆殺事件の処理で昭和天皇の不信を買い総辞職。

※田中外交と高橋積極財政が二本柱。

②〔[4]　　　　　　　　〕**内閣**（**立憲民政党**，1929 ～ 31 年）

憲政会と政友本党が合同した立憲民政党内閣が成立。幣原外交と井上緊縮財政が二本柱。

金解禁を断行したが，ロンドン海軍軍縮条約調印時の**統帥権干犯問題**で

軍令部・枢密院・右翼・立憲政友会などの反感を買い，**浜口が東京駅で狙撃され総辞職**。

③**第二次若槻礼次郎内閣**（**立憲民政党**，1931 年）

入院した浜口に代わり若槻が再度組閣。満洲事変には不拡大方針をとるが，

陸軍はこれを無視。**閣内不統一により総辞職**に追い込まれた。

④〔[5]　　　　　　〕**内閣**（**立憲政友会**，1931 ～ 32 年）

第６代立憲政友会総裁となっていた犬養が組閣。

満洲事変に対し軍部の行動を追認したが，

満洲国建国には反対。

高橋積極財政の下で金輸出を再禁止。

※五・一五事件で犬養毅首相が暗殺され，

戦前の政党政治は終焉を迎える。

東京朝日新聞
號外
昭和七年五月十五日
首相官邸、警視廳、内府邸等を
壮漢隊伍を組み襲撃
ピストル手りう彈を以て
陸海軍制服の軍人等
犬養首相狙撃され
頭部に命中し重態
官邸日本間に侵入
我勝ちに首相へ發砲
二彈命中、すこぶる重態
自動車で乗付け
牧野内府邸に投彈
巡査一名負傷の外幸ひ無事
牧野内府は無事
一味十八名憲兵隊に自首
全閣僚首相官邸に參集
警視廳にも投彈爆發
日銀も襲撃さる
臨時首相代理設置か
三菱銀行本店も
爆彈に見舞はる
但し何等異狀なし
首相従容として
壮漢をたしなむ
警官一萬を動員
徹宵非常警戒
警視廳の幹部協議
首相に輸血
政友會本部を襲ふ
海軍首腦部
嚴重處置を協議

五・一五事件の号外

まとめ

急進的民権派が発展した立憲政友会は積極外交・積極財政，

漸進的民権派が発展した立憲民政党は協調外交・緊縮財政が特色だった。

不況の連続で限界を感じた軍部や国民の世論が，政党内閣を終わらせた。

第19講 PART 2 確認問題

1 清浦奎吾内閣時の衆議院第一党はどれか。

① 立憲政友会　② 憲政会
③ 革新倶楽部　④ 政友本党

2 護憲三派のうち，立憲政友会に属していたのはだれか。

① 高橋是清　② 加藤高明
③ 浜口雄幸　④ 犬養毅

3 第一次若槻礼次郎内閣における外相はだれか。

① 田中義一　② 幣原喜重郎
③ 山本権兵衛　④ 斎藤実

4 「昭和」と改元したのはどの内閣のときか。

① 加藤高明内閣　② 田中義一内閣
③ 犬養毅内閣　④ 第一次若槻礼次郎内閣

5 立憲政友会と関係があるものはどれか。

① 緊縮財政　② 立憲改進党系
③ 急進的民権派　④ 協調外交

6 立憲民政党はどの財閥と結んでいたか。

① 三井財閥　② 三菱財閥
③ 安田財閥　④ 住友財閥

7 張作霖爆殺事件の処理にあたった内閣はどれか。

① 田中義一内閣　② 第二次若槻礼次郎内閣
③ 加藤高明内閣　④ 犬養毅内閣

8 浜口雄幸内閣と関係があるものはどれか。

① 金輸出再禁止　② 強硬外交
③ 閣内不統一　④ 統帥権干犯問題

第 19 講　PART 2　確認問題 解答

1 解答：④

清浦奎吾内閣は，政友本党を衆議院第一党に，陸相・海相を除く全閣僚を貴族院議員から選出する**超然内閣**を組閣。

2 解答：①

②の加藤高明は**憲政会**，③の浜口雄幸は憲政会，④の犬養毅は**革新倶楽部**に所属。

3 解答：②

幣原喜重郎外相がとっていた**協調外交〔幣原外交〕**に対し，枢密院は不満を持っていた。

4 解答：④

1926 年，大正天皇崩御により摂政宮裕仁親王が即位して「昭和」と改元された。

5 解答：③

①の**緊縮財政**，②の立憲改進党系，④の**協調外交**は立憲民政党と関係がある。立憲政友会は，積極外交･積極財政〔インフレ財政〕の傾向が強かった。

6 解答：②

①の三井財閥と結んでいたのは**立憲政友会**である。

7 解答：①

田中義一内閣は，張作霖爆殺事件の処理で昭和天皇の不信を買い，総辞職した。

8 解答：④

①の金輸出再禁止は**犬養毅内閣**，②の強硬外交は**田中義一内閣**，③の閣内不統一は**第二次若槻礼次郎内閣**などのとき。